

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全		26年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	港の安全性・信頼性の向上		成果	コスト			
事務事業名	沿岸防災情報管理システムの改良		継続	維持	維持	連絡先 052-654-7921 工事課、施設事務所	
目的	対象(誰・何を)	沿岸防災情報管理システム				事業期間	平成24~27年度
	意図(どうい う状態に したいか)	高潮対策として海岸保全施設の改良等を行うことにより、海岸保全施設の機能を維持します。					
概要	整備場所:本庁舎、名古屋市港区潮風ふ頭、大手ふ頭、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、昭和ふ頭、船見ふ頭、潮見ふ頭 内容・規模:現行システムを改良し、防潮扉閉鎖の連絡時間短縮や電源・通信回線のバックアップ、収集した各種防災情報(堀川、中川の水門開閉状況、ポンプ稼働状況等)をWeb画面に集約する「情報の見える化」などシステムの機能強化に取り組みます。 総事業費:2.7億円 事業手法:防災・安全交付金(津波・高潮危機管理対策緊急事業)				根拠法令等	社会資本整備重点 計画法 海岸保全基本計画	
事業着手時点の 評価	海岸保全施設の改良等を行うことで、海岸保全施設の機能が維持され、背後地域の生命財産を守ることができます。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
27年度の実施予定	防潮扉の開閉信号を発信する中継局に非常発電機を設置することにより電源の二重化を図り、堀川ポンプ所の稼働状況を本庁舎で遠隔監視できるシステムの整備を行います。				関連シート		

2 DO(実施)

27年度に実施した 内容・結果	中継局の非常用発電機の設置及び堀川口ポンプ所の情報管理システム改良を行いました。					
コスト	単位	25年度	26年度	27年度	合計(平成24年度~)	備考(費用の増減理由等) 平成24・25年度は設計を行い、平成26・27年度に改良を実施しました。
事業費	千円	29,100	131,200	104,190	270,720	
人件費	千円	3,053	3,171	1,338	7,562	
合計	千円	32,153	134,371	105,528	278,282	

3 CHECK(検証)

指標名	25年度	26年度	27年度	最終目標	27	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	5.2	86.8	100.0	100(累計)	事業進捗率は、総事業費を100とした事業費の割合です。	
	実績	11.0	50.8	100.0			
	事業進捗状況(27年度)			順調	やや遅れ・遅れ		
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り事業が完了しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高くなっています。					
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	高潮への対応を主眼とした現行システムを見直し、津波への対応も含めた機能強化を図ることは上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。					
効率性 最小のコストとなっているか?	○	設計段階から最少のコストとなるように取り組んでいます。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	28年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
完了			防潮扉の閉鎖信号を発信する中継局の電源の二重化などのシステム改良が完了したため。
課題		28年度以降の取組	